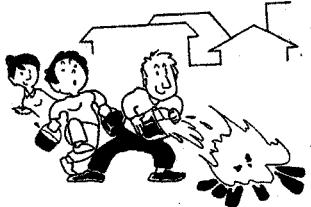


防災訓練に参加して

大代東 白濱 宣子

大代防火クラブによる防災訓練が、十一月二十三日緑地公園駐車場にて行われ参加致しました。快晴で参加者が大勢かと期待したのですが四十人位でした。意識がないのでしょうか?



消防署より所長さん含め七人の消防士が来てくれました。消火器の訓練、バケツリレーと二種類を真剣に教えてくれました。いまさらこんな事と思いませんが、いざと言う時は消火器の置き場所さえ分からなくなるそうです。見える場所、居間にと指示されました。家族皆に置き場所を教えておく様にして下さいとのことでした。原点だと思います。バケツリレーは普通のバケツではなく三回位に分けて水が出る特許言いながら走り誰もが真剣に訓練してバケツでした。大きな声で火事だーといたのが印象的でした。

これから一般住宅にも火災警報器の設置が義務化される様です。これについてはあると知らせがあると思います。訓練ですから何回でも参加しましょう。

夢の帰国（東京ダモイ）（三十七）

大代南 後藤 清

夢の帰国（東京ダモイ）（三十七）

い間ご苦労様でしたと暖かく声をかけてくれて通路には幼稚園児、小学生の

ふれあい川柳
(旧がたづか)

俳句

大代西 松浦 富男

呆けたる牲じやうを忘れし冬の賜ちず
時雨ぐるるや泣く子を庇かばう母の袖
藏王道塞せかれて冬の霧深し
牡蠣剥き女なべて寡默や背くぐも
三寒の富士の裾引く四温かな

笠神西 本郷 勝子

枯あしや霜をまといて 幽かなり
朝市や取れたて野菜夕鍋に

柚子風呂や五体に染みる月日かな
佐助や抹茶一ぶく以合けり

夕映えや障子に写る冬紅葉

ツプを登りきり甲板に立つ張りつめた
緊張が切れ万感交々何がなんだか解ら
なくなつていた。俺は本当に生きて帰
れるのか信じられなく声も出ない。た
だ涙が自然にでてくる。本船に乗り多
くの船員を見て誰かがオーロ本人だ日
本人がいると声高に叫ぶ、一体自分は
何人と思つてゐるのかおかしかつた。
船上には船長を始め医師・看護婦さ
ん等の出迎いを受け、お帰りなさい永

う彼等は手を振つて機嫌きげんよく見送つて
いる。僕は手摺りてすりにすがりながら離れ
ゆくナホトカの丘をじつと見つめていた。
二十二才から四年間俺の青春のエネ
ルギーを総て燃やしつくしてきた恐怖
の地シベリヤ。それでも今となつては
少々懐かしくもあつた。その大地もま
もなく遠ざかり水平線の中に消えて入
つた。